

平成28年度実施事業調査シート

■ 基本事項(事業の位置づけ)

No. 21	項目名	子どもの居場所づくり事業費			主要な施策の 成果 ページ	49	担当 部署	子ども家庭部 子ども家庭課
予算 科目	会計	1	一般会計		総合計 画 体系	分野	子ども・子育て	
	款	3	民生費			基本方針	地域ぐるみの子ども・子育て支援	
	項	2	児童福祉費			施策	ひとり親家庭等への支援の充実	
	目	3	母子父子福祉費			当初予算における区分	(新規施策)・拡大施策・重点施策・その他	
事務事業	160	母子・父子福祉対策費			↑該当するものを○で囲んでください			

■ 事業概要(実施内容)

事業の背景	(事業開始の背景は?実施に至った経緯は?) ひとり親家庭の子どもが抱える特有の課題に対応するため、悩み相談を行いつつ、生活習慣の習得支援、学習支援や食事の提供を行う家庭および学校以外の「第3の居場所」を提供する。
事業の対象	(事業の対象、範囲となる人や物は何なのか?) ひとり親家庭の中学生が対象。
事業の目的	(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか?) ひとり親家庭の子どもが抱える課題に対応し、貧困の連鎖の防止、ひとり親家庭の生活の向上を図る。
事業の内容 (取り組み)	(どういった仕事の内容を、どのような手法・やり方で実施したのか?) 事業の背景に記載した、生活習慣の習得支援、学習支援や食事の提供を委託事業によって行う。

■ 予算・決算状況

		当初予算の状況					決算の状況・実績				
内訳・詳細		委託料:3,000千円					委託料:2,269千円				
事業費(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源	
	予算・決算額	3,000	2,250		750	2,269	1,632			637	
	前年度比	-					-				
◆「当初予算額」と「決算額」の増減理由(事業の進捗状況等)		委託事業所を決定するためのプロポーザル実施により事業費が減額となったため。									
◆平成27年度 事業費(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源	
	0				0	0				0	

■ 事業所管部署による評価

	評価	項目	評価の理由・評価に関する説明
必要性	3	市民ニーズが高い	参加登録者は定員に達しなかったが、継続した参加があったことから、保護者に対しても子どもに対してもニーズがあり、ひとり親家庭の抱える課題に対して、有効な事業であると考えられる。
	2	市の他の政策よりも優先的に実施すべきである	
	4	対象および内容が類似する事業がない	
妥当性	1	法令により実施することが義務付けられている	事業の実施には長期的なボランティアの関わりが重要であり、事業の基盤をつくるうえで、行政は重要な役割を担っている。
	2	法令に定められた市の責務を具現化して実施する事業である	
	3	上位計画に明確に事業が位置づけられている	
	2	国・県・民間の類似サービスと重複していない	
	3	市民の基本的生活の維持・確保に必要な事業、または内部事務である	
効率性	3	他の手法に比べて効率のよい事業手法である	悩みを抱える子どもへの支援に対しノウハウを持った民間事業所の力を活用している。県の補助制度を活用しているが、食材費については補助対象となっていない。
	3	コスト削減の余地はない	
	2	受益者一人当たりのコストは適正である	
	3	受益者負担や補助の割合に問題はない	
継続性	4	事業を継続することで、さらなる効果が見込まれる	現在子どもの居場所は市内1か所のみでの設置であるが、継続した参加があり、居場所が定着しているといえる。事業検証を行い、参加希望者にとって参加しやすい事業となるよう拡大を進めていく必要がある。
	3	所期の目的を達成しておらず、引き続き実施する必要がある	
	3	社会状況の変化に対応した事業内容である	
成果	3	当該年度の事業目的を達成できた	参加登録者は定員に満たないが、利用する子ども、保護者からの評価は高い。
	3	受益者の評価が得られている	
	3	費用対効果が大きい	

↑ 次の4段階により該当する数値を記入してください。

(4.よく当てはまる。 3.およそ当てはまる。 2.あまり当てはまらない。 1.ほとんど当てはまらない。)

■ 事業実施効果および課題、将来展望

事業実施効果	生活支援、学習支援、食の提供を行うため、家庭および学校以外の「第3の居場所」を設置することで、参加する子どもや保護者の抱える課題に対応し、ひとり親家庭の生活の向上を図った。昨年7月の事業開始から33回実施し、定員20名のところ、13名の参加登録があった。					
事業に対する市民の意見、反応	参加した子どもたちから、「学校とは違い、ボランティアが大学生であり、自分と年齢が近くて、相談しやすく楽しい」という意見が出ている。食事についても、ボランティアの協力のもと、好評を得ている。一方、参加場所、参加時間などの理由により、参加したくても参加しづらいという意見もある。					
事業の今後の課題、将来展望	ひとり親家庭のもつ課題に対応できるよう、子どもを取り巻く保護者や学校関係者、地域の協力者と連携をとり、子どもの居場所を広めていき、ひとり親家庭の生活の安定や貧困の連鎖の防止を図っていく。来年度1か所増設する計画があり、現在の委託先と連携のうえ、参加者の募集・制度の周知および事業内容の充実を図っていく。					
※平成29年度の予算措置	予算額(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源
		2,270	1,701			569
	28年度比	76%				
	積算根拠	委託料:2,270千円				

※ 当該事業が平成28年度に終了した場合は、当該事業に代わって措置した予算や関連予算を記載してください。